

## 日本プライマリ・ケア連合学会 専攻医部会での活動の報告

北海道家庭医療学センター / 北海道社会事業協会帯広病院 総合診療科  
やしま しゅん  
八 嶋 駿

北海道医師会の皆様、こんにちは。私は北海道社会事業協会帯広病院総合診療科で専攻医として研修、診療を行いながら、日本プライマリ・ケア連合学会（以下JPCA）の専攻医部会幹事として、全国の専攻医の先生方とともにさまざまな事業を行っております。

JPCA専攻医部会は、学会認定家庭医療後期研修プログラムの全ての専攻医と、学会会員である日本専門医機構認定総合診療専門研修プログラム専攻医を部会員として活動している、専攻医による専攻医のためのサポート組織です。家庭医療学・総合診療専攻医が専門医資格を取得するために必要な知識、技能、経験を得ることや、世代や診療科、さらには国を超えた連携・交流により、多様な視点・経験を得ること、そして研修中の、また研修後まで続く専攻医間のネットワークの構築とキャリアの支援、といったことを活動の目的とし、目的ごとの事業部門に分かれてさまざまな企画立案と実行を行っています。

私はキャリア支援事業部門で専攻医のさまざまなキャリアの実現に向けて支援を行う役割の一端を担わせていただいています。JPCAでは以前より家庭医療専門医の認定を行っており、すでに多数の家庭医療専門医の先生方がいらっしゃいますが、ご存知のように2018年度から専門医機構による新専門医制度が発足し、総合診療も基本19領域の一つとして認められたことで以前に増して総合診療医という存在が医学生や初期研修医などにも知られることとなりました。しかしながら依然として総合診療を専攻する専攻医の数は少ないのが現状です。2019年以降日本プライマリ・ケア連合学会等でも、我々専攻医部会から発表を行ってきましたが、ここ数年の専門医機構内の混乱やさまざまな関係者の提言などで総合診療専門医に明確なキャリアビジョンが見いだせないという印象を、医学生や若手医師に与えてしまっている可



JPCA専攻医部会キャリア支援事業の担当幹事です。左下が筆者で、なんと筆者以外は全員専門医研修と育児をこなす二刀流マドクターたちです…。オンライン会議ではいつもどこからともなく賑やかな声が聞こえるとか…笑

能性があることもその一因だと思われます。少なくとも現に専攻医として研修を行っている我々が自身のキャリアプランについて不安の少ない状態であって、そういった姿を明らかにしていくことで、総合診療領域にもっともっとたくさんの人が携わってくれるのではないかと思ひ活動しています。

さて、前置きが長くなりましたが、今年度行っている具体的な活動をご紹介します。まず現在取り組んでいますのが、「子育て中の研修者と雇用者のための勤務相談シート」の作成です。総合診療領域では、専門研修中に妊娠、出産し、育児と研修を両立されておられる女性医師は多数いらっしゃる、また家族のために育休を取得する男性医師もいらっしゃいます。これからの社会情勢を鑑みるとそのような働き方が当たり前となることが求められていると思いますが、一方で理想論だけでは現実の診療が立ち行かなくなったり、一部の人に負担が集中してしまったりする恐れがあるのも事実です。そのため勤務先の上司や雇用主と研修中の働き方について対話し、相談することが重要と考えますが、専攻医側から上司や雇用主に呼びかけるのは中々勇気のいることです。また、上司や雇用主の側も何を気遣い、どう配慮すればよいかわからないことも多いと思います。そういった場面で活用していただけるよう、より具体的に、個々の状況に応じた研修方法や働き方を検討するために共有したいことを記入

するフォームを作成することで、相談の足がかりとしたり、会話のきっかけになることを狙ってこの「子育て中の研修者と雇用者のための勤務相談シート」を作成することとなりました。2021年12月現在公表に向けて細部の修正を行っており近日中の公表を目指しています。

また、12月4日にはWeb上で子育て中の専攻医や育児に関心のある専攻医へ向けて先輩ドクターによる「育児座談会」を開催いたしました。専攻医時代に出産、育休取得された先生や同じく専攻医時代に奥様が出産され、奥様の復職時に育休をとられた先生をお招きし、お話をうかがったり、専攻医からの質問や疑問にお答えいただいたりしました。産休育休の取得や働き方の調整から、日々の家事のタイムマネジメント、パートナーシップについてまで、様々なこととお話しいただきました。私個人の感想としては、招聘した先生が、育休中に家事育児を分担したらできると思っていたことが全然できてなかったとか、平日日中の社会の様子を見聞きしたことが家庭医としての芸の肥やしになると仰っていたことがとても印象的でした。というのも、家庭医・総合診療医は患者さんの病いの体験や背景を深くさぐり、包括的かつ個別性を重視して対応できることがその資質の一つとして挙げられており、自らの新しい経験が患者さんへの共感力を高めることにつながるかも知れないのです。そういった観点から、育児や家事の負担や産休育休中のキャリアのブランク、といったマイナス面ではなくその経験が何を

自分にもたらしてくれるのか、という見方ができることはとても家庭医らしく、また素晴らしいことだと思ったのです。

専攻医部会企画：育児座談会 Vol.1

## 経験者に聞く 専攻医中の育児、出産

2021.12.04 (土) 14:00-16:00

ZOOM開催。要申込。途中参加途中退室可。後半に座談会あります。

こちらは昨年末に実施したババママ専攻医の支援企画の宣伝バナーです。専攻医部会では定期的にこのようなイベントを企画していく予定です！

他にも、医学生や初期研修医向けに総合診療医のさまざまなキャリアの軌跡を知ってもらうためのブログ (<https://sougoushinryoui-career.hatenablog.com/>) を運営したり、専門研修プログラムの紹介を行ったりもしています。

日々の研修や診療を行いながらの活動のため、なかなか思ったとおりに進まないことも多いですが、同じ家庭医療、総合診療を志す仲間の先生たちとともに活発に活動できていることは非常に楽しいです。微力ながら、総合診療領域の専攻医のみならず、同じように専攻医研修を頑張る先生たちの力になれるようこれからも頑張ってまいります。

# Actions

# アクションズ

若手医師活動報告

## 投稿大募集!!

TEL : 011-231-7661  
E-Mail : ihou@m.doui.jp

**セミナー**



**感染症対策**



**勉強会**



**各種医療活動**

